

活動名	「サイエンスアゴラ2024」及び「超異分野学会・東京大会2025」への出展・発表サポート
-----	--

貢献・連携類型	5. 学生の社会貢献活動への参加奨励
---------	--------------------

報告者	一般教育	学科	職位	准教授	氏名	伊藤 賢一
-----	------	----	----	-----	----	-------

概要（実施したこと、進捗状況等）について記述してください。

物質応用化学科や応用情報工学科の有志の学生が主体となり、生成 AI を活用しながら化学の学習に役立つゲームを学生自身で開発し、制作物を通してゲーム学習研究の普及を図るものです。

今期は、学生らが「サイエンスアゴラ2024 ①」及び「超異分野学会・東京大会2025 ②」の2つの外部イベントへの出展・参加を企画しましたので、報告者らはそのサポートを行いました。サイエンスアゴラに関しては、神経衰弱をもとにした酸や塩基の化合物とその酸性及び塩基性の強さを学習することができる「ケミカルマッチ！」（カードゲーム）を開発して出展、超異分野学会では電子の性質や酸化還元反応を学習することができる「電生（でんせい）ゲーム」（ボードゲーム）を開発して発表を行い、多数の来場者及びゲームや活動に対する好評を得ることができました。

今後の展望、本活動で得られた成果を記述してください。

今期の活動を通して2種類の様式が異なるゲームを獲得し、またゲーム制作に関するノウハウやイベント参加者からの講評にもとづくゲームの改良案等を得ることができたようです。次年度はこれらの情報をもとに、「日大生がやってみたいを実現するプロジェクト（自主創造プロジェクト）」への応募を計画し、より広範な活動を行うことを予定するとのことです。

対象・相手先	① 小学生・中学生・高校生 ② 高校生・大学生・社会人
--------	--------------------------------

協定書・依頼の有無（具体的に記入）	無し
-------------------	----

実施日時	① 令和6年10月26～27日 ② 令和7年3月7日
------	-------------------------------

場所	① テレコムセンタービル ② ベルサール新宿グランド
----	-------------------------------



本学からの参加者  
① 物質応用化学科・村松（早川）麻美子助教

